

◇実践活動記録

1 ふるさと学習のねらい

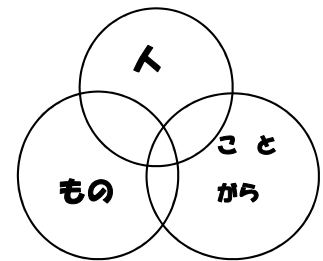
『ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る子供の育成』

- ・ふるさとの歴史や文化や自然、産業、施設等について、見たり、聞いたり、調べたりする活動を通して、ふるさとについて興味・関心をもち大島のことについてもっと知りたいという気持ちをもたせる。
- ・ふるさとのふしぎ・ふるさとの温かさを学ぶことで、ふるさとのよさに気づき、さらによりよいふるさとを築いていこうとする心情や態度を育てる。

2 「ふるさと」の概念

「ふるさと」の概念を、自分の生まれ育った山川（土地）から射水市、富山県さらには、国際的な視野に立った日本の国土全体として捉えることもできるが、本校においては、校区である大島を中心として考えていく。本校では、各教科や総合的な学習の時間等を活用して、以前から地域との関わりを大切にきた多くの活動（地域の先生方とのふれ合い活動、お年寄りや保育園児との交流・感謝の集い）に取り組んでいる。これらの活動を次の三つのカテゴリーに分類し、ふるさと学習として推進していく。

- 1 **人**・・・地域の人材・地域の偉人等に関わるもの
 - 2 **もの**・・・自然・文化財・公共の施設等に関わるもの
 - 3 **ことがら**・・・体験活動・お祭り・歴史・伝承物語等に関わるもの
- ※ 必ずしもきちんと区別されることはない。例えば、赤井の親子獅子は、**ことがら**（地域のお祭り）であると同時に、この地に伝承されている**もの**（文化財）でもある。



3 ふるさと学習の活動基盤

本校のふるさと学習の活動基盤は次の三つとして捉える

- ① 学年・学級を基盤として取り組む活動
主に生活科や社会科・総合的な学習の時間を中心に行う活動
- ② 複数年または、学校全体を基盤として取り組む活動
委員会活動や学校行事等学年の枠を越えて取り組む活動
- ③ 教師の研修の一環として取り組む活動
教師でチームをつくり、各々がテーマに沿って取り組む調べ活動

4 今年度取り組んだ活動の概要

- ① 地域のよさについて学ぶ活動（主に「もの」や「ことがら」に関すること）
 - ・学校田を活用した農業体験（5年生）～米づくりについて学ぶ
 - ・まちたんけん（2年生）～学校周辺の様々な施設の見学
 - ・大島ふるさとたんけんたい（3年生）～大島に残る文化財を中心とする現地調査の実施
 - ・ふるさとに生息する淡水魚の飼育（飼育栽培委員会）
 - ・大島で盛んに行われているへちまとバラの栽培（4年・飼育栽培委員会）
 - ・へちまを使った図工作品の製作（4年）
- ② 地域の温かさにふれる活動（おもに「人」に関すること）
 - ・地域の先生方とのふれあい活動～年6回実施～全校児童が地域の様々な名人と関わりながら、活動を楽しみ、その技を学ぶ。
 - ・収穫感謝の集い（5年）
 - ・生活支援ハウスふるさと訪問（6年）～高齢者との集い
 - ・地域の保育園児との交流活動（1年）
 - ・感謝の集い（全校）の実施～日頃お世話になっている地域の方を招いて、感謝の意を表す集会を実施する。

- ③ 教職員の研修（主に「もの」や「ことがら」に関すること）
 - ・大島の文化財・施設・環境等についてテーマをもち、現地に出かけレポートを作成
 - ・ふるさと写真パネルの製作と展示
 - ・ふるさとマップの製作と展示

5 活動事例の紹介

(1) 4年生「大島の特産ヘチマについて学ぼう」

① 活動のねらい

大島の特産物ヘチマについて詳しく知りたいという願いをもち、年間を通してヘチマと関わり地域のよさや地域の人の優しさにふれる機会を多くもたせる。

② 具体的な活動の様子

大島の特産物ヘチマについて興味をもって調べ、ヘチマとの関わりの中で多くの人々と接する。

○ ヘチマの苗植え（5月）

射水市交通安全協会の協力を得て、校庭の花壇にヘチマの苗を40株植える。子供たちと地域の特産物ヘチマとの関わりは、ここからスタートする。ヘチマが実るまで、毎日世話をし、観察する活動が始まった。

○ ヘチマ産業の施設見学（9月）

ヘチマを活用した製品を作っている工場を見学する。ヘチマたわしを始め、様々なヘチマ製品（ヘチマを使った食品、ヘチマ水、ヘチマシート、ヘチマの靴底敷等）があることに子供たちは驚いていた。また、ヘチマ畑にも案内してもらい、ヘチマのトンネルをくぐったり、ヘチマ水を採取しているところを見学したりした。ヘチマの種類が多いことも知った。ここで学んだことの一部を、学習発表会の中でも発表した。

○ 事故へちま（ヘチマ）え作戦に参加（9月）

射水市交通安全協会及び射水警察署交通安全課の方と一緒に交通事故がなくなることを願って、学校近くの県道で道行くドライバーにヘチマ水を手渡した。

○ 長い間、世話をしてきたヘチマが大きく実りみんなで収穫した。（9月）

○ ヘチマを使った図画工作（9月～10月）

乾燥したヘチマとヘチマシートを素材とて、図画工作の時間に立体作品を作った。「ヘチマックワールド不思議な生き物」と題して、その作品を学習発表会で展示し、多くの方々に見てもらった。



(ヘチマックワールド不思議な生き物)

③ 子供の反応

(子供の感謝の手紙より)

ヘチマ産業のみなさんへ

ヘチマ産業の中をひとつひとついねいに案内していただき、ヘチマのことをたくさん教わりました。ヘチマには、たくさんの種類があることにおどろきました。また、ここでは、30年間ずっとヘチマをさいばいし、いろいろなヘチマ製品を作っておられること、また、天然のヘチマ製品のすばらしさも知りました。今、学校でヘチマを育てていますが、大きなヘチマになるよう大切に育てていきたいと思います。 ○○より

(子供の作文より)

事故へっちなまえ作戦で、道路に出て運転手の方にへちま水を配りました。知らない人に話しかけるので、はずかしい気持ちでドキドキしました。勇気を出して「安全運転をおねがいます」と言ってへちま水を手渡しました。運転手さんが、え顔で「どうもありがとう。がんばってね」と言ってくれました。だんだんはずかしい気持ちはなくなり、わたしもえ顔でへちま水を渡すことができました。

④ 活動を終えて

年間を通して、子供たちはへちまのことに ついてとても詳しくなり、ふるさとの特産物であるへちまをより身近なものと感じるようになった。中には、石油製品より天然のへちまを使った製品の方がすばらしいことを理解し、積極的にそれらを使おうとする子供も見られた。また、へちまを通して大島地区交通安全協会の方々やへちま産業の方々と接し、多くのことを学び、人の優しさにも触れることもできた。へちまについての知識や理解だけでなく、へちまを通して多くの方と接することのできるこの活動を、今後も続けていくことが大切である。

(2) 地域の先生とのふれあい活動

① 活動のねらい

スポーツやボランティア活動、文化的活動等を通して、地域の方と触れ合うことにより、地域の方に親しみを持ち、豊かな心や思いやりの心を育てる。

② 具体的な活動

・年間6回実施 (6月1日、6月22日、7月6日、9月14日、10月19日、11月16日)

活動内容	指導者(団体)	活動場所
1 刃物を使った工作(上学年)	ボーイスカウト射水第1団	図工室
2 読み聞かせ	絵本館職員、他	図書館、ゴーゴ教室
3 レクダンス	生涯スポーツ指導員、他	2階活動ホール
4 ペタンク	ひまわりの会	1階マルチホール
5 手話	手と手の和	パソコン室
6 ベルマーク・切手の仕分け	収集の仲間	ものづくり教室
7 グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフ協会	中央児童遊園地
8 パークゴルフ	パークゴルフ協会	中庭
9 野球(1、2年)	〇〇さん	中央児童遊園地
10 詩吟	〇〇さん	2階音楽室
11 ビーチバレーボール	生涯スポーツ指導員	体育館
12 合唱	〇〇さん	3階音楽室
13 紙芝居(下学年)	〇〇さん	5年ゆとり教室
14 ディスコン	中野ディスコン同好会	2階マルチホール
15 のじた踊り	〇〇さん	1階ふれあい教室
16 囲碁(上学年)	〇〇さん	にこにこ教室

・活動時間13時10分～13時40分



■交通事故減「へっちなまえ」 射水市大島小学校(宮内茂夫校長)の4年生らは、同市大島庁舎前で「事故へっちなまえ(へちま)え作戦」を行い、ドライバーに無事故を呼び掛けながらへちま水のボトルを配った。写真

児童は大島地域特産のへちまの苗を今春、校内の花壇に植え育ててきた。ボトルには「事故へっちなまえ(へちま)の心の種をまいて収穫したへちま水です」などと記したラベルを貼った。

児童や射水交通安全協会大島支部(北林恒好支部長)、大島地区交通安全母の会(大田健子会長)のメンバー、射水署員ら計約50人が参加。児童はへちま水を渡しながら「安全運転をお願いします」と呼び掛けていた。

③ 子供の反応（感想文より）

○ レクダンスを体験して

うまれてはじめて、レクダンスにちょうせんしました。うまくできるかしんばいでしたが、せんせいが「じょうずだね」といってほめてくださいました。とてもうれしかったです。（1年S児）

○ 詩吟を体験して

先生が、暗号みたいな記号を解説しながら、電子ピアノの小さな楽器で演奏をしてくださいました。太田道かんの詩の意味をぼく達にも分かるように教えてくださいました。また、声の出し方のポイントもていねいに教えてくださいました。始めは少しはずかしい思いで声を出していましたが、お腹から声を出すことでなんだかすっきりとした気分になりました。（6年K児）

○ 囲碁を体験して

6回ある中の4回は、ベルマークや切手収集の活動に参加しました。最後の会で囲碁をやりました。初めての体験でしたが、とても楽しかったです。来年は、もっと色々な活動にチャレンジしたいと思いました。（4年O児）

④ 活動を終えて

子供たちは、様々な体験を通して、その活動の楽しさを感じ取ったようである。また、地域の先生とふれ合い、その会話の中から地域の方の優しさや思いやりの気持ちを感じ取った子供も多くいた。中には、ずっと同じ活動に参加している子供もいたが、K児のように初めての活動に、その楽しさを感じ取った子供もいた。また、地域の先生方の中から「子供たちから元気をもらっています。私たちのためにもこれからも子供たちと関わっていきたいです」という声も聞かれた。

次年度は、できるだけたくさんの活動に子供たちを参加させ、活動の楽しさを味わわせるだけでなく、多くの地域の先生方と触れ合うように働きかけていきたい。



(ペタンク)



(のじた踊り)



(碁碁)

(3) 感謝の集い

① 活動のねらい

日頃お世話になっている地域の方々を招いての集会活動を通して、地域の方との交流を図り、感謝の気持ちを高める。

② 具体的な活動

「地域の先生とのふれあい活動」で指導していただいた方々や、登下校の「見守り隊」の方々を招待して、全校集会を行った。

○日時 平成 29 年 12 月 7 日（木）13:40～14:40

○内容

- ・はじめの言葉
- ・見守り隊の方と地域の先生の紹介
- ・見守り隊の方・地域の先生へのお礼の言葉
- ・地域の代表の方のお話
- ・ゲーム（地域の方と一緒に）
- ・出し物（2年生）
- ・歌のプレゼント「ビリーブ」（全校合唱）
- ・校長先生の話
- ・終わりの言葉
- ・見守り隊の方・地域の先生の退場



(感謝の集い)

③ 子供の反応（感謝の手紙より）

○ 見守り隊の方へ

雨の日、寒い日、暑い日、風の強い日、毎日どんな日でもわたしたちのことを見守ってくださってありがとうございます。冬には、少し暗くなって不安な時もあるけど、見守り隊の方に会うと不安がとんでいき、安心して帰ることができます。わたしは、あいさつをもっと大きい声でしたいです。これからもお体に気をつけてください。（6年K児）

○ ペタンクの先生へ

ペタンクを教えてくださいありがとうございます。さいしょは、やり方を知らなかったけど、教えてもらいやってみると、すごく楽しかったです。三人たい三人ですることや黄色いボールに近いほうが勝ち等、くわしくおしえてくださいました。これからもたくさんの人にペタンクを教えてください。（3年H児）

○ よみきかせの先生へ

「手のりにんじゃ」の本をよんでくださってありがとうございました。またらいねんもいろんな本をよんでください。（1年E児）

⑤ 活動を終えて

子供たちは、地域の方々へ感謝の手紙を書くことを通して、これまでにいただいたことを振り返ることができた。集会当日には、楽しいゲームを通して地域の方々との交流を図ることができた。また、地域の方々も、子供たちのかわいい出し物をうれしそうな表情で見えられた。

(4) 教職員の研修

① 研修のねらい

ふるさとのすばらしさを子供たちに伝えるには、まず指導者である教員がふるさと大島のことを知らなくてはならないと考え、「まず、大島を知る」ことをねらいとして研修が進められた。本校の教職員は40名いるが、大島に在住する教員はわずか2名である。ほとんどの教員は大島に関しての知識が少ない。そこで、年間を通して次のような計画を立てて研修を進めた。

② 具体的な研修内容

1 学期～夏休み	2 学 期	3 学 期
活動Ⅰ ふるさと学習の年間計画の作成（各学年） 活動Ⅱ ふるさと大島に関するに調査活動	活動Ⅲ ふるさと写真の展示 大島大型マップの作成	活動Ⅳ 調査活動結果報告会

○活動Ⅱの調査活動について

各教員が、大島の特徴の表れた29のもの・ひと・ことの中から一つのテーマを選んで調査活動を行った。調査は、比較的時間にゆとりのある夏休みを利用して行った。文献で調べたり、現地に出かけて、写真を撮ったり、関係者にインタビューしたり、様々な方法で、各自のテーマに沿って、調査を行った。

番号	名 称	番号	名 称	番号	名 称
1	庄川	11	越中大門駅	21	ヨシダ大島体育館
2	解禁の日の釣り人	12	大島のバラ	22	大島弓道場
3	大島北野河川公園	13	吉田寛氏の銅像	23	越中大島太鼓
4	東洋紡庄川工場	14	大島小学校のポプラ	24	射水市役所
5	大日寺の板碑	15	大島絵本館(ライブラリー)	25	太子像発掘の地
6	与七ごんげん	16	ワークショップ	26	新開発のばんぶち石
7	ヘチマ畑	17	親子獅子	27	今開発のヒイラギ
8	ヘチマ製品	18	鳥取の里石碑	28	四方四仏多層塔
9	草島往来	19	大島中央公園	29	イータウン
10	小島の石名橋	20	梅の碑とモニュメント		

③ 調査を実施しての教員の声

- ・ 歴史に関わる資料は残っているものの、現在のその位置が特定できないものがあった。
- ・ 市役所の職員の方がたくさんの資料を準備してくださり、1時間を費やして分かりやすく説明をしてくださった。大変助かった。
- ・ 祭りや行事等については、その時期でないと本来の姿を見ることができないものもある。取材のタイミングが難しい。
- ・ 現地を地図から探して取材に出かけたら、「既に、子供たちが何人かで質問をしていきましたよ」と地域の方からの声が返ってきた。
- ・ 地域に残る文化財について質問したところ、熱心に説明をしてくださる方がおられた。地域の宝として大切にしておられることがひしひしと伝わってきた。

④ 研修を終えて

調査活動を終えた教員の会話の中には、調査の苦労話や新しい発見をしたことの喜びの声が聞かれた。普段の休憩時間や放課後の雑談の中でも、調査内容の共有化が図られていた。また、来る2月には調査結果の報告会が行われ、さらなる共有化が図られるものと考えられる。教師が、ふるさと大島の素晴らしさを体感し、そこで学んだことを伝え合うことで、多くの教員が大島をより理解することができる。そして、研修を通して得たことを子供たちの学習に生かすことで、より深いふるさと学習の実践ができるようになる。



6 終わりに

(1) 実践の成果

- 各々の活動を通して、子供たちはたくさんの人と交わり、地域の方の温かさに触れると同時に感謝の気持ちをもつことができた。子供たちの作文や手紙の中からも読み取れるように、たくさん地域の方から楽しい遊びやダンス・スポーツ等を教えていただき、親しみをもって接することができた。また、毎日の登下校では、雨の日も雪の日も自分たちの安全を見守ってくださる見守り隊の方々へ感謝の気持ちをもつことができた。(主に**人**に関わること)
- ふるさと大島について見たり、聞いたり、調べたりする活動を通して、ふるさとの素晴らしさを感じ取ることができた。4年生の「大島の特産へちまについて学ぼう」のへちま産業の施設見学だけでなく、3年生の「大島ふるさとたんけんたい」や2年生の「まちたんけん」等では、大島の様々な場所へ出かけ、ふるさとの施設や文化財を見学してきた。そこで子供たちは大島のふしぎに出合い、大島の素晴らしいところをたくさん学んだ。中には、そこで学んだことに興味・関心をもち、さらに調査を進め夏休みの自由課題としてまとめる子供もいた。(主に**もの・ことがら**に関わること)

- ふるさと学習に関わる研修を推進したことで、教員のふるさと大島についての理解が深まり、学習のための資料の蓄積がなされた。校区内のどこにどのような施設や文化財があるかまた、それらを学習にどのように位置付けるか等、ふるさと学習を推進していく上で欠かすことのできない事柄が研修を通して明らかになった。また、研修の中で作成したふるさとマップやパネル写真は、子供たちの調べ学習の資料として有意義なものとなった。(主に**もの・ことがら**に関わること)

(2) 今後の課題

- 多岐に渡る活動の中には、ここ数年継続的に行われ、そのノウハウが蓄積されているものが多いが、中にはその学年独自のその年限りの活動になっているものもある。そういった活動においては記録をしっかりと残し、活動の問題点を改善しながら次の年に引き継いでいくことが大切である。
- ふるさと学習の究極のねらいである「ふるさとを創る子供の育成」にまでは至っていない。このことに関しては、今後どのような手立てや活動が必要なのかを考えていきたい。
- 各々の教員が現地に出かけ調べてきたことは、レポート（原稿）と写真にまとめてデジタル化されている。今後は、これを活用して子供用の副読本を製本し、学習に役立てていきたい。